



拓^{ひら}き、開^{ひら}く、道^{みち}の物語^{ものがたり}。

立山黒部アルペンルート

北陸と信州を結ぶ新たな道のはじまり



新幹線が開くもう一つの道

北陸新幹線長野～金沢間の延伸開業により、これまで北アルプスに隔てられ、近くて遠い印象のあった北陸と信州が一気に近づきました。そしてこの時、今から半世紀近く前に築かれた信州と北陸を結ぶもうひとつの道、「立山黒部アルペンルート」開通当初からの大きな夢が実現したのかもしれない。

北陸新幹線は加賀前田家が金沢と江戸を結ぶ最短の道として、参勤交代に利用したルートに近似しています。一方、立山黒部アルペンルートは、戦国時代、富山の武将・佐々成正が「さらさら越え（ザラ峠越え）」を決行した道筋が原型といわれます。立山をはじめ3000m級の急峻な山が連なるルートで、厳寒期には氷点下20～30℃となり、積雪も10mを超す世界有数の豪雪地帯です。その後も道がつくられたものの、自然の厳しさの前に廃道を余儀なくされました。

この道が再び注目されるのは1950年代。急増する電力需要に対応し、新たな電源を創出するため、北アルプスの核心部を流れる黒部川の上流に貯水式のダム、発電所を建設するという挑戦によってでした。工事資材や建設に関わる人々の輸送路の開発を電力会社が行うのと並行し、観光にも熱い視線が注がれ、官民一体事業として北陸と信州を結ぶ壮大な山岳ルートの開発が進められました。

険しい山中での大規模工事は困難を極めます。しかも立山・黒部エリアの神聖な山岳景観や自然環境を損なわないことが絶対条件。そのため電源開発、観光ルート創造のどちらも、当時の土木・建築技術の粋を集めて推進され、「世紀の大工事」と呼ばれました。

工事は1956年8月、大町から黒

部ダム地点に至る輸送路の建設からスタート。厳冬期も休みなく続けられ、大町トンネル（現関電トンネル）の掘削日進は20.2m、日本のトンネル掘削記録を塗り替えるスピードでした。小説や映画に描かれた「破砕帯（大量の地下水を含む軟弱地層）」との格闘をはじめ、厳しい自然の中で敢行された工事は、その後の土木工技術の発展に大きな足跡を残します。

一方、立山山腹の大観峰だいかんほう～黒部平の1700mを結ぶ立山ロープウェイも、常識に挑む人々の活躍によって雪害防止と景観保全が実現しました。途中に支柱のないワンスパン方式のロープウェイとしては、今も日本最長を誇っています。

総延長37.2km、最大高低差1975mを、6種類の乗り物を使い継いで立山（富山県立山町）～扇沢（長野県大町市）間をつなぐ立山黒部アルペンルートが開通したのは1971年。以来、国際的な山岳観光ルートとして人気を集めてきました。室堂～黒部ダム間の全線電氣化、高原バスのエコ車両化、沿線観光施設への物資輸送の一元化、さらには高精度GPSを駆使した道路除雪による早春の「雪の大谷」観光の実施など時代を先取る施策に挑み続け、いまや年間100万人近い観光客が訪れます。

北陸新幹線の開通は、これまで折り返しの観光になりがちだった立山黒部アルペンルートの横断を可能にし、信州、北陸をより身近な場所へと変えました。立山黒部アルペンルート開通から半世紀の時を経て、雄大な自然と人間の技術の融合、そして進化への積極的な取り組みにより、信州と北陸を結ぶ交流の道は真の完成を遂げました。

【北アルプスの大自然に親しむ6つの交通手段】



立山ロープウェイ

標高2316mの大観峰と標高1828mの黒部平を、1本の支柱もない状態で結ぶワンスパン式ロープウェイ。1.7kmを7分で進みます。立山連峰、後立山連峰を間近に望む360度の大パノラマは必見。



黒部ケーブルカー

標高差約400m、最大勾配31度の急斜面を走ります。日本で唯一、全線を地下として雪害防止と景観維持を実現したケーブルカーです。2つの車両が昇降する「つるべ式」。途中ですれ違う様子が見えます。

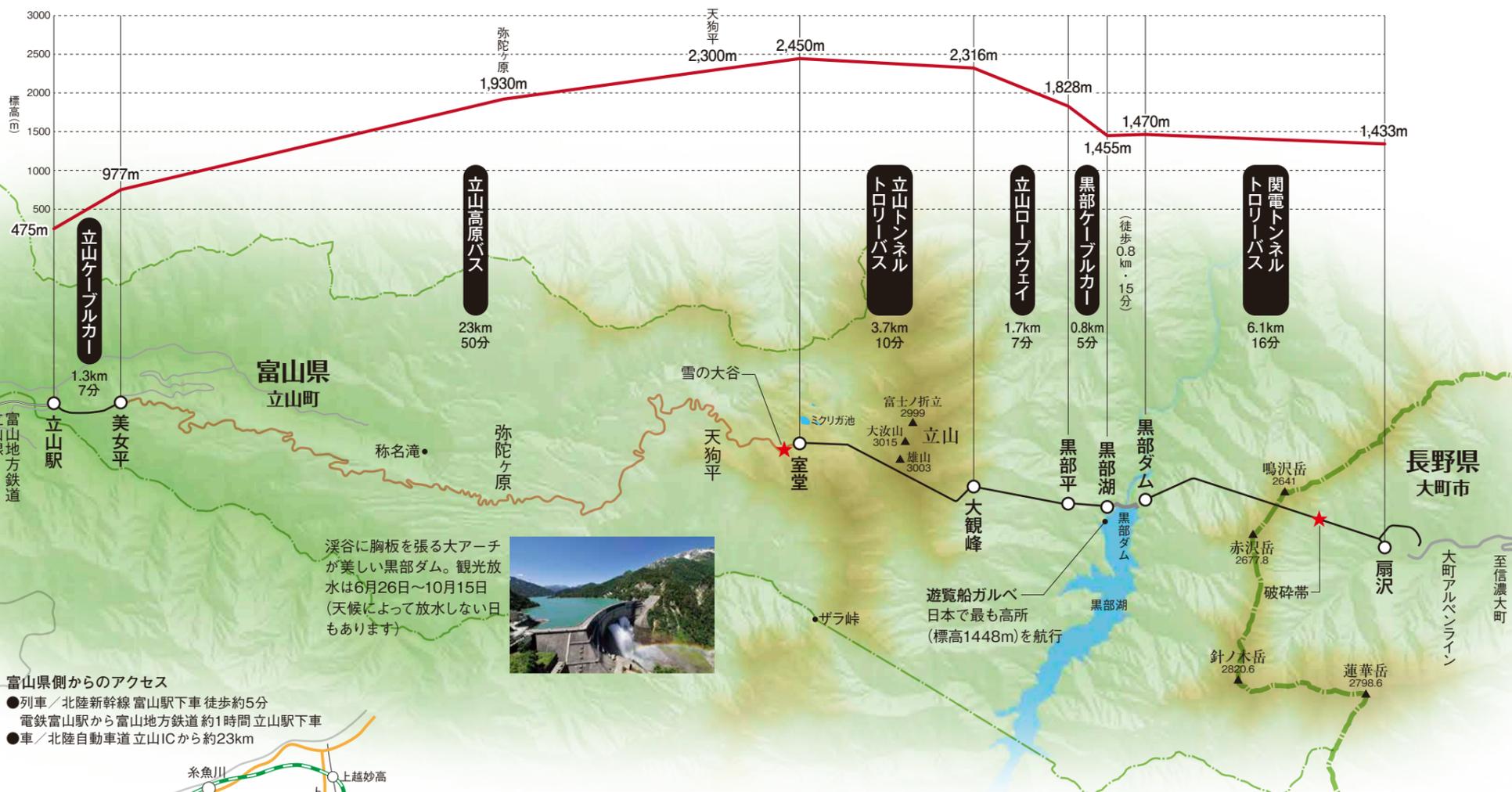


関電トンネルトロリーバス

距離6.1km、標高差37mを約16分で進みます。「バス」という名ですが実は架線から電気供給を受けて走る電車。途中、トンネル工事を阻んだ「破碎帯」を通過します。2014年に開業50年を迎えました。

立山黒部アルペンルートに
大自然と人の技術の融合を探る

平安時代から山岳信仰の霊場であり、近代には北アルプス探検登山の舞台だった立山黒部の山懐に約17年の歳月をかけて全通した立山黒部アルペンルート。神聖な山岳景観に敬意を払いつつ、科学技術の粋を集めて実現した世界的にも希有な山岳観光ルートです。自然環境に合わせた6つの乗り物を使い継いで、雄大な自然探訪の旅が実現します。



富山県側からのアクセス

- 列車／北陸新幹線 富山駅下車 徒歩約5分
- 電鉄富山駅から富山地方鉄道約1時間立山駅下車
- 車／北陸自動車道 立山ICから約23km



長野県側からのアクセス

- 列車／JR信濃大町駅から扇沢行きバス40分 終点扇沢駅下車
- JR長野駅から扇沢行き特急バス約1時間45分（4月16日～11月30日）
- 車／長野自動車道 安曇野ICから約41km



渓谷に胸板を張る大アーチが美しい黒部ダム。観光放水は6月26日～10月15日（天候によって放水しない日もあります）



立山ケーブルカー

黒部ダムの建設用資材や工事に関わる人も運搬したケーブルカー。荷台付の車両が今も利用されています。2つの車両が昇降する「つるべ式」。標高差500mを一気に移動し、標高とともに移り変わる植生を確認できます。



立山高原バス

標高977m美女平と標高2450mの室堂を結ぶ約23kmを50分で走行。ハイブリッド車両、クリーンディーゼルエンジン車両への切り替えを推進し、環境負荷を抑える取り組みをしています。亜高山帯から高山帯への植生変化を車窓から観察できます。



立山トンネルトロリーバス

立山の主峰・雄山（3003m）直下を貫通する立山トンネルを走ります。日本でトロリーバスに乗車できるのは、関電トンネルとこの立山トンネルのみ。1996年にそれまでのディーゼルバスからトロリーバス化。

高精度GPSを駆使した雪の大谷除雪

立山黒部アルペンルートは2月から約2ヶ月におよぶ除雪作業を経て4月中旬に開通します。その実現に欠かせないのが高精度GPS。高さ20mもの雪の下にある高原道路を正確に探し当て、掘り下げます。

●雪の大谷ウォーク 4月16日～6月22日



水力発電を知る黒部ルート見学会

観光ルートとは別に発電設備の保守・工事用の輸送ルート（黒部ルート）が、黒部ダムと黒部峡谷鉄道樺平駅の間に設けられており、水力発電への理解を深めるための見学会が毎年日限定で行われています。

※関西電力のホームページに応募要項あり



世紀の大工事 大町トンネルと黒部ダム

大町トンネル（現関電トンネル）掘削中に遭遇した「破碎帯」は、毎秒660リットルもの地下水が大量の土砂とともに吹き出る軟弱地層でした。突破のために英知を結集した7ヶ月の苦闘と発電設備建設の様子を描いた小説・映画「黒部の太陽」により、黒部ダムの存在が広く知られるようになりました。



MIYAMA information

リアルタイム情報で効率作業を支援する「e-navi」

廃棄物の収集運搬や処理状況、マニフェスト情報など、お客様の業務効率化に役立つ情報提供サービスを開始します。インターネットに接続可能なPC、スマートフォン等で、ミヤマの環境管理システムに登録された情報やGPSを搭載した収集運搬車両の情報をリアルタイムに閲覧できます。さらに引取廃棄物の確定数量や処理完了の確認、最新の許可証の閲覧・印刷や報告書用データの集計・書き出しなど、効率的な作業を支援します。サービス開始時期等、詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。

e-naviの機能

1. 収集運搬・処理状況の閲覧
2. マニフェスト情報の閲覧
3. 集計データのファイル出力(年度)
4. 許可証の閲覧・印刷
5. お知らせの閲覧(許可証更新、法改正など)

※ご利用にはインターネットに接続可能なPC、タブレットまたはスマートフォンが必要です。
※二段階認証と暗号化通信によるセキュリティ対策が施されています。

処分完了までの状況を確認
委託契約締結後の管理情報を確認できます。

- 配車状況
- 引取状況
- 収集運搬状況
- 中間処理
- 最終処分

マニフェスト枚数	出発地	出発日時	現在状況	現在地	到着予想時間	目的地	到着日時
-	ミヤマ株式会社 燕工場	-	引取先へ走行中	FRP V/C #3 13t 長野市〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	11:00	株式会社△△工場	01/25 11:00
-	ミヤマ株式会社 上越工場	-	走行中	FRP V/C #3 13t 長野市〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	16:53	株式会社△△工場	01/23 17:10
1	〇〇株式会社 △△工場	01/23 09:35	荷降し中	クレーン13t 長野市〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	-	ミヤマ株式会社 中野工場	01/23 14:51
14	マニフェスト (14)	-	処理中	-	-	-	-
41	マニフェスト (41)	-	処理完了	-	-	-	-
209	マニフェスト (209)	-	最終処分完了	-	-	-	-

報告書の集計も簡単

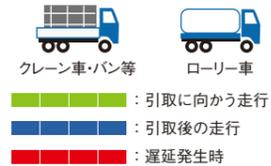
マニフェスト情報は一元管理され、年度ごとの集計ができます。

到着予想時間を確認

引取車両の到着予想時間が表示されます。この時間は渋滞など走行状況で変化します。

作業状態を把握

走行中・作業中・荷降し中など現在の作業状態が表示されます。



処理状況を把握

処理中、処理完了、最終処分完了が表示されます。



「マニフェスト詳細情報」画面

マニフェスト更新情報をいち早く確認

該当するマニフェスト情報が一覧表示されます。さらに「マニフェスト詳細情報」画面で、交付番号ごとに確定数量、処分終了日などの閲覧ができます。

「収集・処理状況」画面

特定施設を廃止した敷地を再利用する際のご相談が増えています

有害物質使用特定施設の使用を廃止する際には、土壤汚染対策法により調査が義務付けられています。都道府県知事に確認申請を行い、条件を満たしていれば敷地全域の調査義務が猶予されます。最近、こうした土地の一部売却や利用方法の

変更、事業施設の新築など、調査猶予中の敷地を利用する際の調査義務発生の有無や行政対応に関するご相談が増加しています。ミヤマでは、都道府県ごとに異なる対応が求められる行政手続きから調査・対策まで、お客様に合わせた対応をご提案しています。



2015 April-May



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社 / 〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

- リサイクルセンター / 東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場 / 中野・上越・分水・燕・大町
- 技術開発センター ■EM開発センター ■長野テクノセンター ■保全機材センター
- 名古屋プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
- 営業所 / 盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST #26

発行日:平成27年4月1日 発行人:南 克明 企画:ミヤマ株式会社 広報室 制作:デザインワンエイト